

宝のえにしに平幡ハ

(市内の貴重な文化財や自然などを紹介します)



盆花

(キキョウ、オミナエシ、ミソハギ)

お盆には、盆棚や墓地に盆花として、野の花を供える慣習があります。先祖の霊は山に住んでおり、野の花で先祖の霊をお迎えするという考え方からです。盆花として供えられる野の花は、キキョウ、オミナエシ、ミソハギ、ヤマユリ、カンゾウが一般的のようです。

筆者が子どものころ、安代地区でも盆花といえばキキョウ、オミナエシ、ミソハギが主でした。同年輩の者が誘い合って、近くの共同利用の採草地へ盆花採りに出かけたものですが、短時間で抱えきれないほどのキキョウとオミナエシを採ることができ、祖母に多すぎるとよく言われたものです。なおキキョウそのものを盆花、オミナエシをアワバナと呼ぶこともあります。

しかし、農業の機械化による牛馬の飼育頭数の減少や化学肥料の使用量増加に伴い、草地の減少や野焼き、山焼きなどによる草地管理がほとんど無くなり、キキョウやオミナエシがたくさん生える環境の草地は、植林地や雑木林に姿を変えてきました。筆者のポイント観察地で、安代地区のキキョウは上記写真の撮影地のみとなり、オミナエシは個体数の減少が急激で、両種とも県の絶滅危惧種に指定されています。ミソハギだけは、休耕田に大集団で生えるようになりました。

今は栽培された花が、普通に盆花として供えられていますが、限りなく野の花に近い雰囲気の花で、先祖の霊をお迎えしている方もおられます。(撮影はいずれも2011年8月)

(文・八幡平市文化財保護審議会委員 八幡輝夫)

《参考文献》 野辺の花 (邊見泰子著、1975年・保育社)
いわてレッドデータブックー岩手県の希少な野生生物(岩手県自然保護課編、2001年・岩手県)
八幡平市の植物第Ⅱ集(八幡輝夫著、2012年・八幡平市立図書館製本所蔵)

編集後記

今回、写真で特集しましたが、5月は小・中学校の運動会ラッシュでした。どの学校も趣向をこらした競技ばかりで、見ている分には楽しかったのですが、いざ撮影となると、追っかけながら、自分も走ること。おかげで少し痩せた気がします。(佐々木)

今月の表紙 青空の中 ジャンプ!

安代中学校体育祭は、5月13日(日)、同校の校庭で行われました。当日は天気にも恵まれ、生徒たちは皆全力で競技に取り組んでいました。今年から始まった競技「Excuse me.May I jump?〜すみません、ジャンプしてもいいですか〜」では、全校生徒が馬跳びでリレーし、白熱した展開を見せました。

